

登熟期の高温時における効率的な水管理法

福島県農業試験場会津地域研究支場
平成16～17年度試験成績概要

- 1 部門名 水稲－水稲－水管理・品質
分類コード01-01-14270000
- 2 担当者 松本靖・山内敏美・齋藤弘文
- 3 要 旨

登熟期前半（出穂後5～20日）の高温時に効率的に地温が低下し、節水につながる水管理法を確立するため、「昼間掛け流し－夜間落水」、「昼間湛水－夜間落水」について検討した。

(1)「昼間掛け流し－夜間落水」、「昼間湛水－夜間落水」のいずれの水管理においても、「間断灌漑」と比較して最高地温が低下するとともに、最低地温が上昇しないため、効率的に平均地温が低下した。両管理法の比較では「昼間掛け流し－夜間落水」の地温低下効果が高かった。

(2)「昼間掛け流し－夜間落水」、「昼間湛水－夜間落水」の水管理法により「間断灌漑」に比較して、白未熟粒、胴割粒が減少し、整粒歩合が高まった。両管理法の比較では「昼間掛け流し－夜間落水」の玄米品質低下防止効果が高かった。

- 4 その他の資料など